

若宮公民館だより

2024年のスタートに当たって

館長 関 武彦

皆様にとって、輝かしい新しい年になりますことを心よりお祈り申し上げます。さて、去年は多くの皆様にお越しいただき、公民館が地域の拠点としてさらに発展できたことを心より嬉しく思っております。これからの一年も、皆様にとって有意義な時間を提供できるよう努めていきますのでよろしくお願い致します。

そのために、公民館を地域の方々が気軽に利用し、交流の場となるよう努めます。地域のコミュニティづくりにおいても、一役買える存在となるよう、様々な取り組みを進めてまいります。地域の方に役立つ講座やイベントを積極的に提供してまいります。皆様のニーズに応え、学びや楽しみの場として公民館をご活用いただけるよう、幅広いプログラムの提供に努めます。



地域の情報発信しています



前庭には季節の花がいっぱいです



メダカ育成中です

そして、職員一同が協力し合い、利用者の皆様が快適に公民館を利用できるよう努めてまいります。ご要望やご意見をお聞きし、公民館をより良い場所にするために努力してまいりますので、どうぞお気軽にお知らせください。

新しい年が皆様にとって素晴らしい出会いと充実した瞬間で満ち溢れたものとなりますよう、心よりお祈り申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

若宮新春邦楽コンサート開催

1月28日（日）に多くの若宮・中山地区の方に箏と和太鼓の演奏を聴いていただきました。「上を向いて歩こう」「西部警察のテーマ」「さくら変奏曲」などさまざまなバリエーションの曲が間近で演奏され、来場された皆様は感動された様子でした。また、講師から和楽器の歴史にもふれていただき、プチ知識を得ることができました。



山脇貴久恵先生（箏奏者）と藤舎英佳先生（邦楽囃子）による演奏の様子

3月1日（金）から若宮公民館に 図書の返却ポストが設置されます



市川市立図書館の本の返却にどうぞご利用ください。

公民館図書室（東部・曾谷ほか）の本など、バーコードの付いていない本は返却できません。

中山・若宮地域の防災を考える講座を開催しました

本年度は、新年早々能登地方に大変大きな地震が発生いたしました。昨年度、本公民館では「地域の防災を考える」講座を開催し、たくさんの地域の方が参加されました。「自助・共助・公助」という言葉の中に「公助」という言葉があるように、非常災害時には地域での助け合いが必要になります。この講座の中で得られた教訓をお伝えします。

講座名：「自分・家族・地域の防災について学ぼう！」

講師：前危機管理監 水野 雅雄 氏 危機管理課主幹 土屋 昌之 氏



災害時における若宮・中山地区のリスクと地域の強みは何か

☆リスクは何か。

若宮地区は、延焼による危険性もあり初期消火が重要です。

地区内には、狭い道路が見受けられます。がけ崩れで避難路が閉塞されることも想定できます。

グループの話し合い

☆強みは何か。

町内会で「自主防災組織」があり、災害発生時に助け合うことが出来るように準備している。

日常的な備えはどうしたらよいか。

ローリングストックという言葉があるように、「日々の生活で購入するものを少し多めに備蓄しておく」とよいでしょう。災害時に何が必要かを家庭で見直すことが必要です。また、家族で街歩きなどして安全な避難ルートを複数確認しましょう。必要に応じて耐震診断や改修、危険ブロック塀の撤去、感震ブレーカーの設置、家具の固定など自宅の防災対策を考えましょう。

参加された方の感想

学んだ内容を、世代間を通した町会での活動のきっかけづくりとしたい。

身近に感じる内容で、今後どのように行動していけばいいか考えさせられた。

講座担当から

グループワークでは、災害時にどのような行動がとれるのか様々な意見が出されました。日頃から、災害を想定して話し合いをすることが災害時にとれる最適解の行動につながるように感じました。また、日頃からのコミュニケーションをとることが何より必要であるので、コミュニケーション作りの場として公民館を活用していただきたいと思います。



災害時にできることを学習

～講師からのメッセージ～

※講師の体験より、

「阪神・淡路大震災」での救助活動は、「自助」70%「共助」20%「公助」10%だといわれています。

大地震直後は救助隊も来られないことを想定し、私たちが日ごろから備えることが大切です。



防災倉庫を見学中